

# 提言書

---

シーニックバイウェイ北海道 制度検討委員会

令和5年3月13日



みちをきっかけとして、交流人口の拡大、地域関連産業の振興及び地域における雇用の拡大を目指す公民連携プログラムとして始まったシーニックバイウェイ北海道は、活動団体をはじめ関わる全ての人々が、「美しい地域にしたい!」「地域経済を元気にしたい!」「訪れる方に喜んでほしい!」等の想いを実現するために試行錯誤を重ね、地域への愛着と誇りを基盤にして、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりの歩みを進めてきた。2つのモデルルートから始まったその歩みは、道内各地へと広がり、14の指定ルートと3の候補ルートの約500団体がさまざまな地域づくりに取り組む「地域活動のプラットフォーム」として厚みを増し大きく成長した。そして活動開始から約20年、北海道のみちとまちはとても綺麗になった。

広大な北海道は、豊かな自然環境・美しい景観に恵まれ「食」「観光」を担う生産空間として我が国に貢献している。そんな、人々を惹きつける魅力と包容力がある北海道で、人々が安心して各地域で暮らし続けるためには、生活サービスの広域化に対応するための高規格道路などの公共施設がハードのインフラストラクチャー（社会基盤）として重要な役割を果たす。しかし、それだけで十分ではない。

各地域が、人々が安心して笑顔で豊かに長い間「生活」し続けられる地域であり続けるためには、そのハードのインフラストラクチャーを使いこなすことが必要であり、この地で立ち竦むことなく、挑戦する人達の存在と多様な主体との連携が欠かせない。

「人こそが資源」であることが強く再認識される今、挑戦を続けるシーニックバイウェイ北海道に関わる人々、さらに活動団体、個人、それを支える国や自治体、関係機関がひとつになって協働する仕組みそのものが、北海道各地の生産空間において、地域づくりを進めるうえで欠かすことができないソフトのインフラストラクチャーとなりつつある。

グローバル化の進展、世界規模での感染症拡大の経験を経て、デジタル化の推進など社会環境が大きく変化する一方、人々の価値観も「心の豊かさ」を重視、地方移住や多様な暮らし方・働き方への関心も高まっている。そこで、これまでのシーニックバイウェイ北海道の歩みを見つめなおし、その変化さえも楽しみに変え、シーニックバイウェイ北海道が、さらに一步、新しいステージに踏み出し、北海道の未来に貢献していくための指針をとりまとめる。

シーニックバイウェイ北海道の関係者は、これまで長い時間をかけて、その理念を共有し、手探りで活動の幅を広げ、深化させてきた。そして、「シーニックバイウェイ北海道とは何であるか」という価値観や方法論は、基本方針において明文化された目標等に加えて、暗黙知として関係者の中で大切にされてきた。

しかし、活動団体を含めて、今後もシーニックバイウェイ北海道が地域のコミュニティ形成に重要な役割を果たしていくためには、次世代にその理念を伝え、共感を得て、ともに取り組むことが不可欠となる。そのためには、社会環境の変化等を踏まえた方向性を見直しだけでなく、関係者がこの「暗黙知」を確固としたものとして共有し、さらには、多様な世代に共感を広げて（気持ちを合わせて）、新たな仲間を得ていくため、その「軸」となるビジョンをわかりやすく言語化することが必要となる。

シーニックバイウェイ北海道の価値は、多種多様な活動が20年間という長い年月にわたって、機能し続けることができた実績に裏付けされた、北海道の各地域を愛する人達の組織を超えたつながりである。このつながりが、既にシーニックバイウェイ北海道の取組として内部化されたもののみならず、北海道各地における難しい課題に立ち向かう人々の勇気になり、その取組を支えるソフトなインフラストラクチャーとして機能していく。

制度創設から20年という節目を迎えて、北海道に欠かすことができないソフト・インフラストラクチャーとなったシーニックバイウェイ北海道を持続可能なものにすることが、今、求められている。

## 提言 1 : シーニックバイウェイの意義・目的の明確化と共有

- シーニックバイウェイの特性や社会的な要請を踏まえた意義・目的の明確化
- シーニックバイウェイ関係者間の意義・目的の共有と新たな仲間づくりの場の創出

これまでは、交流人口の拡大、地域関連産業の振興及び地域における雇用の拡大を念頭に、札幌圏や道外の方々に道内の各ルートを訪問していただくことや各ルートの活動について広く知っていただくことを企図した情報発信などが積極的に取り組まれてきたが、その礎となる戦略が不明確だった。

今後は、シーニックバイウェイ北海道の活動団体の方々とビジョンを共有してモチベーションを維持・向上していくために、各地域内の方々とシーニックバイウェイ北海道の価値や楽しさを共有して活動への参加者又は支援者となっていただくために、海外・道外を含めた地域外の方々と各ルートの魅力を共有して関係人口となっていただくために、というように、今、抱える課題や進みたい方向を踏まえ、シーニックバイウェイ北海道の内外のステークホルダー全体を見渡して、多様な主体とどのような関係を、どのように築いていくのかというパブリック・リレーションズ戦略を立案し、実行していかなければならない。

一方で、シーニックバイウェイ北海道を巡る社会環境はこの10年で大きく変化した。まずはインバウンド観光の進展である。新型コロナウイルスの感染拡大前までの5年間で、来道外国人旅行者は約3倍に増加し、シーニックバイウェイ北海道が継続的に取り組んできた外国人ドライブ観光についても、外国人へのレンタカー貸出数が年間10万台に達した。北海道が国外の旅行者を魅了するポテンシャルがあることが証明された。その後、新型コロナウイルスの感染拡大により、訪日外国人旅行者は大幅に減少し、北海道観光は甚大な被害を受けている。しかし、この新たな脅威により、北海道観光の魅力が失われたわけではない。むしろ、広域分散型の低密度の地域構造下での生活サービスの維持・向上という挑戦は、密になりにくい安全安心な旅行体験を提供する強みにつながる。今後の世界的なツーリズムの回復の中で、もう一度、世界から選ばれる観光地として、北海道がどのような価値を発信できるか。そのときにシーニックバイウェイ北海道がそれにどのように貢献できるかという視点が重要となる。

## 提言2：パブリックリレーションズ戦略の策定と実践

- 意義・目的をシーニックバイウェイ内外の方と共有するため、ステークホルダー※1全体を見渡したPR戦略  
※1 活動団体、地域内(潜在的活動者・支援者)、地域外(関係人口・来訪客)等
- 多世代の新たな方の参加、ファンを増やすための方策検討
- わかりやすい言葉の検討

シーニックバイウェイ北海道は、14の指定ルートと3の候補ルートに広がった。各ルートの活動団体の構成やその活動などは多様化し、ルート毎に注力する分野や取組手法もまた同様に多様化した。こうしたなかでは、制度運営において、全てのルートで共有すべきビジョンや統一的に進めるべき取組と、そのビジョンのもとで実践される各ルートの個性ある取組の推進は、いずれも重要なものである一方、意識的に分けて考えるべきことが重要となる。

各ルートの個性ある取組を推進するためには、各ルートの目標、方針等の個性が明確化され、活動団体に共有されるように、そして、その個性に忘れた支援が提供されるような制度にならなくてはならない。そのためには、シーニックバイウェイ北海道に関わる多様な分野の専門家、関係機関、ルートコーディネーター等が各ルートのルート活動方針・運営状況に応じた支援を提供する仕組みの整備が有効と考えられる。

一方、ルートの個性は、ルート指定当初から意識される場合もあれば、実際の活動の中で顕在化する場合もある。このため、ルート指定当初に策定されているルート運営活動計画についても、適時適切な見直しを行い活用すること。また、制度創設から20年という節目を迎えて、北海道に欠かすことができないソフト・インフラストラクチャーとなったシーニックバイウェイ北海道を持続可能なものにすることが、今、求められており、活動を続けている地域の人たちの熱い想いを多様な世代に伝え、新しい仲間を増やすことが急務となっている。

### 提言3：各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築

- カーボンニュートラルやアフターコロナ、地域内人材のさらなる巻き込み、オーセンティケーション※2  
地域内経済循環、ファンマーケティングなど、各ルートの活動方針及びルート運営状況に応じた支援体制を構築 ※2「いかに本物化していくか」という考え方
- 各ルートの運営に多様な世代が関わりやすくなる仕組みの検討
- リアルとデジタルを活用した有識者等によるアドバイスの仕組みの検討
- ルートコーディネーターの技術継承の方策検討

## 提言 1 : シーニックバイウェイの意義・目的の明確化と共有

- シーニックバイウェイの特性や社会的な要請を踏まえた意義・目的の明確化
- シーニックバイウェイ関係者間の意義・目的の共有と新たな仲間づくりの場の創出

## 提言 2 : パブリックリレーションズ戦略の策定と実践

- 意義・目的をシーニックバイウェイ内外の方と共有するため、ステークホルダー※1全体を見渡したPR戦略 ※1 活動団体、地域内(潜在的活動者・支援者)、地域外(関係人口・来訪客)等
- 多世代の新たな方の参加、ファンを増やすための方策検討
- わかりやすい言葉の検討

## 提言 3 : 各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築

- カーボンニュートラルやアフターコロナ、地域内人材のさらなる巻き込み、オーセンティケーション※2、地域内経済循環、ファンマーケティングなど、各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築 ※2「いかに本物化していくか」という考え方
- 各ルートの運営に多様な世代が関わりやすくなる仕組みの検討
- リアルとデジタルを活用した有識者等によるアドバイスの仕組みの検討
- ルートコーディネーターの技術継承の方策検討

## シーニックバイウェイの意義・目的の明確化と共有 ①

### ● シーニックバイウェイの特性や社会的な要請を踏まえた意義・目的の明確化

- 「社会情勢」や「地域力を活かし、地域が元気になること」を視点とした基本方針・実施要綱等を改定する
- シーニックバイウェイ登録メリットの明確化（候補ルートから指定となるメリット、制度のバックアップ体制など）
- 行政機関及びSBW支援センターにおいては、ルートのモチベーション維持のための取組みや計画を検討する
- 各ルートで自分たちが達成したいこと（目標）を確認し、ふりかえる（自己総括）仕組みを検討する（3年・5年・10年の中長期的の視点を持ち、ふりかえりながら目標に向かい歩み続ける仕組み）

#### 【シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針 記載項目】

シーニックバイウェイ北海道の持続的・効果的推進を図るためには、行政だけでなく、地域住民や活動団体、そして地域を訪れる旅行者も巻き込んだ一体的・総合的な取組みが必要である。この基本方針は魅力あるルート形成や全道的推進における取組みの共通指針としてさだめるものである。

1. シーニックバイウェイ北海道の意義
2. シーニックバイウェイ北海道の目標
3. 推進の基本方針

▲ シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針  
平成28年8月4日更新（全4頁）

#### 【関連する要項等の見直しの例】

- ◆ シーニックバイウェイルート 募集要項
- ◆ ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト応募要項 他

#### 【シーニックバイウェイ北海道取組みの心得 シーニック10箇条】

- ◇ 楽しくなければ継続できない！
- ◇ 「この地域をどうしたいか」自ら考えよう！
- ◇ 「何をやりたいか」考え、身の丈にあったことからやろう！
- ◇ 顔の見える取組みをしよう！
- ◇ つながれば大きな力に！ 連携を意識しながら参加しよう！
- ◇ 他の活動をよく知ろう！ できれば誉めよう！（批判しない）
- ◇ 使えるものはなんでも使おう！ 地域資源、行政、企業・・・
- ◇ 気長に取組み、次世代に引き継げる地域にしよう！
- ◇ 地域が元気になるビジネスチャンスを作ろう！
- ◇ ……（地域の個性に合わせて考えてみよう！）

▲ 制度施行当初より、シーニックバイウェイ北海道の各ルート及び、新たに参加を希望する地域・団体へお知らせしている「シーニック10箇条」：2006年（一社）シーニックバイウェイ支援センター視察説明資料より

## シーニックバイウェイの意義・目的の明確化と共有 ②

### ● シーニックバイウェイ関係者の意義・目的の共有と新たな仲間づくりの場の創出

- 誰もが参加できるオープンな全道フォーラムなど、シーニックバイウェイ関係者が意義・目的、成果を共有し、新たな仲間づくりの機会となる場を検討する
- 全道代表者会議やブロック会議等の既存会議を「地域間の交流」や「住民の共感」を促す視点で見直す
- リアルとデジタルの活用により、参加・交流しやすい共有の場を検討する

【全道フォーラム（過年度開催）の例】

▲シーニックバイウェイ北海道フォーラム2006 in大雪・富良野ルート  
(ルート共催/エクスカーションの開催例)



▲シーニックバイウェイ北海道フォーラム2008  
(シーニックワークショップ/開催例  
ルート運営、外国人観光、景観改善、IoTリズム)

【推進協議会が主催する主な会議】

- ◆全道代表者会議
- ◆ブロック会議（道央・道南、道北、道東）
- ◆シーニックバイウェイ運営会議
- ◆シーニックバイウェイ審査委員会（会議・現地視察）
- ◆シーニックバイウェイ推進協議会

項目	概要	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022
全道フォーラム	ルート活動の共有や講演等	札幌	富良野			札幌						国際フォーラム							日本風景街道大学ニセコキャンパス
チカホPRイベント	チカホで写真パネル展等																		
全道ミーティング	ルートが主催する全道実務者会議																		
全道企画会議	RCが主催する全道ルート会議																		
全道ルート代表者会議	全道ルート代表の会議			伊たばらホテック富良野															
ブロック会議	3つのブロックで会議																		
若手会・女子会	ルートの若手・女性の会議																		
勉強会・ワーキング	RC主催の勉強会等				Bywayコミュニティ会議														のしる白神NT×SBW スキルアップセミナー

▲シーニックバイウェイ北海道 各種会議の開催状況（2005-2022）



## パブリックリレーションズ戦略の策定と実践 ①

### ● 意義・目的をシーニックバイウェイ内外の方と共有するため、ステークホルダー※1全体を見渡したパブリックリレーションズ戦略 ※1 活動団体、地域内(潜在的活動者・支援者)、地域外(関係人口・来訪客)など

- シーニックバイウェイ北海道の活動団体の方々とビジョンを共有してモチベーションを維持・向上していく
- 各地域内の方々とシーニックバイウェイ北海道の価値や楽しさを共有して活動への参加者又は支援者となっていただく
- 海外・道外を含めた地域外の方々と各ルートの魅力を共有して関係人口となっていただくなど、多様な主体とどのような関係をどの様に築いていくかというパブリックリレーションズ戦略を策定し、実践する。

#### <パブリックリレーションズ戦略策定と実践の視点例>

##### 活動団体

- 道路をメディアとして、何が一番プラスとなるか、魅力になるのか各ルートで（若者をいれた）見直しが必要
- シーニックバイウェイを観光の目的地として訪れる方々について目を向け考える
- DMC（地域と協同して観光地域作りを行う法人）という概念やオーバーツーリズムの視点を意識する

##### 地域内 (潜在的活動者・支援者)

- 住民の共感や地域の満足度が上がる取組み
- ワクワクするしかけ、アプローチの検討
- 若者世代からの学びを得られる関係づくり

##### 地域外 (関係人口・来訪客)等

- 観光客に役立つ情報発信機能の構築
  - ・各ルートで制作しているマップの標準化
  - ・情報誌ScenicBywayの再編集
- シーニックバイウェイへ旅行行動を促す取組み
  - ・レンタカーと連携した、ドライブ観光&各ルートへの誘導
  - ・ランキング（他の媒体の活用、推奨ルートの設定）
  - ・道のスペシャリストやAI音声を活用した、各ルートの紹介

#### 【多様な主体との関係構築の例】



▲情報誌ScenicBywayは、地域外への観光情報を発信するツールであり、ルートコーディネーターが取材を通じて地域内の関係を構築するコミュニケーションツールでもある



▲推進協議会事務局によるシーニックバイウェイに関する大学での講義とグループディスカッション

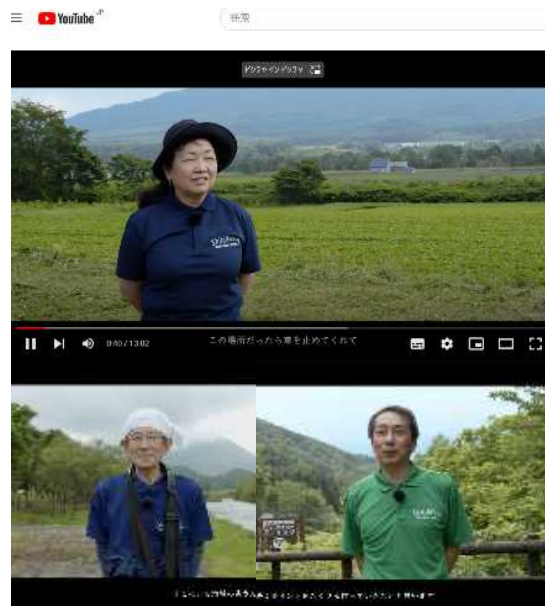
## パブリックリレーションズ戦略の策定と実践 ②

### ● 多世代の新たな方の参加、ファンを増やすための方策検討

#### 【実践の検討例①】

- ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクトMVP賞や個人の笑顔入りのPR動画作成など、各ルートのキャラクターを活かした情報発信の検討
- シーニックバイウェイの熱量を波及する情報発信の検討
  - 地域の方々の考えや仕事をオンラインサロンやSNS等を活用し提供する
  - 地域の観光事業者・コンシェルジュに、シーニックバイウェイの魅力を知ってもらいお客様に紹介してもらう など
- 道の写真&ストーリーを募集するフォトコンテストを開催するなど、一般参加を促す仕組みの検討

#### 【個人の笑顔入りのPR動画の例】



▲ 国道276号「秀逸な道」とルートメンバー  
 <支笏洞爺ニセコルート\_ニセコ羊蹄エリア編>

#### 【地域の考えや仕事の発信の例】



▲ ウェブサイト、Twitter、Facebookでの情報発信  
 <知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ>

#### 【一般参加を促す仕組みの例】



▲ シーニックフォトコン2019  
 <支笏洞爺ニセコルート>

## パブリックリレーションズ戦略の策定と実践 ③

### ● わかりやすい言葉の検討

#### 【実践の検討例②】

- 「シーニック○○」など、全道共通で使用する名称や、親しみやすい活動名、印象的なプロジェクト名など、取組みをわかりやすく伝える言葉の検討
- ターゲットやシーンにあわせ、シーニックバイウェイをわかりやすく説明するキャッチコピー等の検討

#### 【シーニック○○○の例】

- ◆ シーニックデッキ・カフェ
- ◆ シーニック情報拠点
- ・ シーニックツアー
- ・ シーニック イン (ホテルや旅館など) 他

#### 【キャッチコピーの例】

- ・ 世界一美しい道づくり
- シーニックバイウェイ
- 北海道 など

#### 【親しみやすい活動名の例】



#### 【印象的なプロジェクト名の例】



広大な牧場、眼下に広がる海、一面のお花畑、紅葉にそまる山々、どこまでも広がる畑、四季折々の美しさを見せる秀峰・・・シーニックデッキは、美しい景観を見ることが出来る地元住民おススメの場所です。



景観のよい場所でのんびりコーヒーを飲んだり、地元食材を使ったお食事を味わったり、地元発信の観光情報があったり、地元の人と交流できたり・・・シーニックカフェは地域の魅力がいっぱいの地元住民おススメのカフェです。

▲ルートおすすめの見点場と地域を味わえるお店  
を登録するシーニックデッキ・カフェ

▲「シーニックナイト」  
＜支笏洞爺こせコレート＞

▲「100年の木プロジェクト」  
＜大雪・富良野ルート／十勝シーニックバイウェイ＞ 10

## 各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築 ①

### ●カーボンニュートラル、地域内人材のさらなる巻き込み、オーセンティケーション※2 地域内経済循環、ファンマーケティングなど、各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築

※2「いかに本物化していくか」という考え方

- シーニックバイウェイ北海道で取組む共通テーマを設け、希望するルートとともに活動を展開する  
(地域のアイデアやプロジェクトを集約する機能が必要)
- 地域が様々な面から豊かになれるよう金銭面以外での信用や関係性を構築しつつ、必要に応じ地域価値のマネタイズ  
(収益化) の検討や企業版ふるさと納税の活用など資金確保の仕組みを検討する
- 行政機関及び支援センターにおいては、DX (デジタルトランスフォーメーション) による支援策について検討する

【共通テーマの取組み例】

- ・シーニックの森づくり
- ・バスプロ受賞活動の全道展開
- ・シーニックカフェ連携
- ・道の駅連携

等



▲きじひき森林公園の森  
〈函館・大沼・噴火湾ルート〉

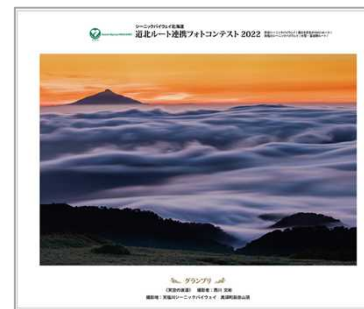


▲ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2022  
最優秀賞「ふたりぼっちパスポート」  
〈トカプ子雄大空間〉

【地域資源の活用・資金確保の仕組みの検討例】

- ・フォトコン写真のNFT (Non-Fungible Token) 販売
- ・動画配信で寄付

等



▲道北ルート連携フォトコン



▲YouTube「清原チャンネル」  
※最大3万回再生  
〈トカプ子雄大空間〉

## 各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築 ②

- 各ルートの運営に多様な世代が関わりやすくなる仕組みの検討
- リアルとデジタルを活用した有識者等によるアドバイスの仕組みの検討

- 若手勉強会、おてつたび、学校シーニックバイウェイ等、多様な世代が関わりやすくなる仕組みの検討
- みんなで繋がり、議論する話し合いの「場」づくり
  - 若い世代をはじめ、地域内外シーニックバイウェイの活動団体に拘らず声をかけ多様な世代を巻き込む
  - 道づくりのみならず、地域づくりをふくめた課題の検討が必要
  - 「場」の見せ方、アートや自然を絡めるなど、参加意欲を高める工夫が必要
- リアルとデジタルを活用した、有識者との意見交換や視察などアドバイスの仕組みの検討

【多様な世代が関わりやすくなる仕組みの例】



▲お手伝いをしながら、知らない地域を旅する「おてつたび」への参画



▲学校シーニックバイウェイをマニュアル化し横展開<南十勝夢街道>

【話し合いの「場」づくり&参加意欲を高める工夫の例】

・何も決めないことがルール  
宗谷を語る『しゃべり場』  
＜宗谷シーニックバイウェイ＞  
・フィールドワーク付き会議  
・焚火トーク  
等



▲ウェルカム北海道エリア 地域・行政合同会議（フィールドワーク付き）<支笏洞爺二セコルート>

【審査委員会等との意見交換・視察の例】



大雪・富良野ルート  
オンライン視察・意見交換  
【実施概要】

令和3年7月3日(土) 13:00～16:00

▲オンライン現地視察及び意見交換<大雪・富良野ルート>

## 各ルートでの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築 ③

### ● ルートコーディネーターの技術継承の方策検討

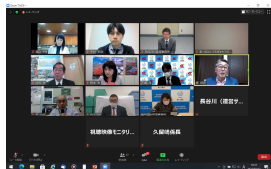
- ルートコーディネーターの複数体制やルート間の相互交流
- 有識者との意見交換・情報共有機会の創出
- テーマ別プロジェクトの企画・運営を担うなど、ルートコーディネーターの技術を磨き、継承する方策を検討

#### 【シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針（抜粋）】

・ルートコーディネーターは、ルート活動団体の発案を把握し、関係団体、行政等を含め実現に向けた調整に努めるとともに、自らも活動内容の企画提案、財政援助に関する制度を活用提案するなど、地域資源の活用が雇用や収入として循環するように努める。

#### 【ルート間の相互交流の例】

- ・シーニックバイウェイ北海道・日本風景街道
- ・米国シーニックバイウェイの各ルート・活動団体との交流



日本風景街道  
のしろ市白神ネットワーク主催/  
市民まちづくりフォーラム参加



シーニックバイウェイ北海道推進協議会  
主催/スキルアップセミナー（2023.02.07）

▲日本風景街道「のしろ白神のみち」  
×シーニックバイウェイ北海道の相互交流

#### 【有識者との意見交換・情報共有の例】

- ・審査委員視察への参加・情報共有
- ・ルート活動への招聘
- ・活動フィールドの訪問 等



▲知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ  
審査委員会視察（2022.09.09-10）

#### 【テーマ別プロジェクトの企画・運営の例】

- ・サイクルツーリズム ・フットパス
- ・ゆきはね ・ワイナリーツアー
- ・アートプロジェクト 等



▲きた北海道エコ・モビリティ  
（人力と公共交通を組みあわせた旅の提案）  
天塩川×宗谷シーニックバイウェイ広域連携 13